

Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第104号

ななえ古写真物語

VOL. 104

路地の賑い

丸市チェーンストアー

昭和45年頃

緑町地区



コンビニエンスストアの台頭のせいか、近年、住宅街の片隅で写真のような商店の姿をめっきりと見なくなったような気がします。

ちょっとした日用品や食品、酒、たばこなどを買うにはちょうど良い店。今のような車社会ではない時代、さほど歩かなくても買い物ができるこういった商店が、一般住宅にまぎれて軒を連ね、子ども達は「お使い」に走らされていたものです。

緑町地区にあった「丸市チェーンストアー」もそういった店のひとつで、看板からは塩の小売所だったことや、簡易郵便局も併設していたことがわかります。おそらく、この地域にとって便利屋的な存在だったのでしょう。写真を見ても、バイクを店先にとめて、簡易郵便局で用事を足している男性の姿が見られますし、窓口前には待合室となっているのか、ガラス戸で覆われた中に椅子も用意されています。電話のマークに「でんわ・でんぼう」の文字が記された看板にも懐かしさを覚えます。

町史によると、緑町の簡易郵便局の開局は昭和41年とありますから、店の開業はそれ以前なのではないかと推測しますが、詳しい方がいたらご教授頂きたいと思います。

今は、その面影がないのですが、その昔、七飯駅と丸市チェーンストアーの間には、札幌清酒七飯工場が設置されたり（後に協和発酵工業会社へと変わる）、昭和41年には、アスパラガスの缶詰で有名なクレードル七飯工場が操業を開始するなど、賑いを見せていました。そういった中、このストアーも多くの方に愛される店だったのだろうと想像します。残念ながら現在は閉店となり、簡易郵便局のみが営業しています。こういった往時の日常を写した一枚を、資料として残すことは、町の暮らしの変遷を見て取るにも、重要な役割を担うものと考えます。

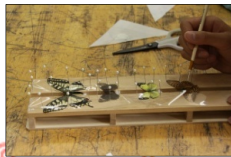
ところで、いつからこの店の辺りが「緑町」と呼ばれるようになったのか、新たな疑問が生じました。七飯町では昭和3年と30年に字名改正が行われていますが、前者では緑町という字名が記されておらず、後者の時に鶴野村の一部と七飯村字桜岡の一部が「緑町」という字名に変わったことが記されていました。現在の町名変遷も知っているようで、わからないことが多いなと改めて知らされてしまいました。

次の課題は、多くある「桜岡」の旧字名の由来。静かに私の探究心に火が付いたようです。

6日

夜の博物館では、身近な植物を学ぶため、函館植物研究会の宗像先生を講師にお招きし、スミレをはじめ、イチヤクソウ、ギシギシ、アカザなど、よく目にする植物の細かな違いを学びました。

種類を知れば知るほど、分類は難しくなるのです。という先生の言葉通り、中間の特徴が多く存在することを知り、参加者も苦笑い。あれこれ想像しながら、植物を同定する難しさと楽しさを学んだ時間となりました。

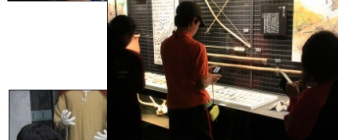


23日

元気な子供達と昆虫採集・標本作り教室を開催しました。午前中は蝶を中心に仁山山麓で網を振りかざし、採集をします。すぐに捕まえられた子もそうでない子も、夏休みの良い経験となったのではないのでしょうか。皆でお弁当を食べたあとは、いよいよ標本作り。採集した昆虫をきれいに残すための注意を講師の先生から聞いて、見慣れない道具を使い、真剣な眼差しで向かう姿が印象的でした。

27日

「縄文探険」と題し、発掘体験をする予定でしたが、あいにくの雨で中止となり、出土した遺物の見学をしました。様々な形の土器や石器の写真を撮ったり、スケッチをした後は、道具のもつ形の意味や使い方、昔の暮らしについてなどの質問をしました。その後は函館市縄文文化交流センターにて施設内を見学し、くみひも作りを体験します。単純な手先を使う作業に手こずる子も。でも出来上がりを互いに見せ合い笑顔。帰りのバスの中では一番の元気を出して盛り上がる子供たちの声に包まれました。



9月の予定

1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水 夜の博物館
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月 敬老の日
20	火
21	水
22	木 秋分の日
23	金
24	土 ジュニア探検クラブ
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金

9月の休館日はありません

七高生就業体験

7月14日・15日の2日間、七高生3名が就業体験を行いました。それぞれの個性が表れていた本の紹介カードの作製。圧倒的なインパクトを持つ恐竜の絵、実に見事！



編集後記 ~tawagoto~

この間、展示に必要な蝶を捕りに近場の山へ赴いた。あたりには、ニイニイゼミの鳴き声が響き渡っていたが、保護色となる彼らの羽色のせいもあって、なかなか姿を見つけられないでいた。ようやく、ハンノキにしがみついているセミを見つけ網を一振り。カッコよくネットインするはずだったが、するりと網をかわしたセミは飛び立ち、何故か私の胸ポケットにイン。採集中まれにみるミラクルを体感した瞬間だった。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~
第104号

平成28年8月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp